

平成23年度事業計画

I. 文化財研究所事業

1. 埋蔵文化財の発掘調査・報告書作成事業

(1) 発掘調査事業

市内南部の長原遺跡等約20件を主とする発掘調査をはじめ、民間開発に伴う発掘調査や国庫補助金による史跡整備に伴う発掘調査および緊急発掘調査に速やかに対応する。

(2) 報告書作成事業

難波宮跡・中之島蔵屋敷・長原遺跡等、約30件の報告書を作成する他、大阪市内北部方面の報告書作成作業を実施する。

2. 文化財関連事業

(1) 文化財関連施設の管理・活用

難波宮跡公園及び5世紀代建物の維持管理を受託するとともに地域の文化資産として各種機関・団体と協力して活用を図る。また、埋蔵文化財収蔵倉庫の維持管理を受託し、遺跡や出土品を良好な状態で保存・管理するとともに随時活用できるように努める。

(2) 保存科学・分析等事業

生野区の新保存科学室への移転を終え、市内の発掘出土品の保存処理に加え、出土品や文化財の保存処理・理化学的な分析を積極的に受託し、実施する。この他に、技術力や人材を活かし、文化財の調査、公開等に関する事業を積極的に実施する。

(3) 関連資料の収集・管理

文化財に関連する調査報告書およびほかの関連図書等の収集に努め、活用に供せられるよう管理する。

(4) 文化財関係機関との協力・交流

海外の文化財関係機関をはじめ、国内外の文化財研究機関との協力、交流を行う。

3. 大阪市の博物館・美術館との連携

調査・研究、普及教育、広報等、大阪市の博物館・美術館との連携を通じ、文化財事業および博物館・美術館活動の活性化に努める。

4. 普及教育事業

(1) 生涯学習支援、学校連携

発掘調査の成果をより速やかに、多くの市民を対象として公開すべく現地説明会を開催するとともに、「金曜歴史講座」等の講座や催しを、大阪歴

史博物館をはじめとする大阪市立の博物館・美術館群と協力して実施する。「いちょう大学」・「平野住民大学講座」等の他機関への企画協力・講師派遣のほか、「難波宮フェスタ」をはじめ各区の市民サークルと連携した講座・展示制作や「中央区民まつり」・「長原・六反古代市」・「学校児童体験発掘」等のイベント参加によって地域活動や学校教育に対する支援・協力を行う。

(2) 資料活用

大阪歴史博物館をはじめとする大阪市立の博物館・美術館群のほか、各地の文化財関連施設や博物館・美術館の展示へ協力するほか、出版社等への写真資料提供等も行う。また、出土品を展示している市内約30箇所の展示施設（「街角ミュージアム」）への協力をはじめ、依頼により展示施設の企画・実施を行うなど、調査成果と資料を積極的に活用する。さらに、難波宮跡公園をはじめとする史跡・資料・施設の見学に随時、対応する。

(3) 情報発信

情報誌『葦火』（隔月）等の図書の刊行・頒布を行い、ホームページ等により文化財に関する調査成果や行事の広報宣伝等の情報発信に努める。

5. 文化財に関する研究

科学研究費補助金をはじめとする競争的資金の獲得に努め、文化財や考古学、歴史に関する研究を行い、研究紀要の刊行等で成果を公表する。特に複数年度にわたる研究については、累積する成果をまとめて効果的に公表できるよう工夫する。

Ⅱ. 大阪歴史博物館管理運営事業

1. 資料の収集、保管事業

大阪の歴史と文化に関する資料の情報収集に努め、収集方針にもとづき着実に資料の収集をはかる。新収蔵資料には燻蒸を実施し、最適な環境での資料の保管を行う。

2. 展示事業

(1) 常設展示

館蔵品や埋蔵文化財の計画的な展示更新を行うとともに、学芸員による展示解説、ボランティアによるスタンプラリーや体験事業(ハンズ・オン)などを実施。

(2) 特集展示

館蔵品や最新の埋蔵文化財の調査結果を活用した展示、大阪市交通局と連携した展示など、年間6本の特集展示を開催。

特に、開館10年目にあたる今年度は、それを記念して10周年に相応しい大阪の歴史と文化に関する特集展示を開催する。

(3) 特別展示

①特別展「幕末・明治の超絶技巧 世界を驚嘆させた金属工芸 — 清水三年坂美術館コレクションを中心に—」

〔平成23年4月13日～5月29日〕

幕末・明治の細密工芸のコレクションとして知られる清水三年坂美術館の所蔵品を中心に、江戸から明治という変革の時代に新たな芸術を目指した「金属・アート」の名品約150件を展示する。

②特別展「民都大阪の建築力」〔平成23年7月23日～9月25日〕

建築の魅力を公共建築と民間建築に分け、前者ではコンペの図面や理想を描いた透視図を通して、建築の創造力・構想力を紹介する。また後者では、オフィスビルや百貨店を中心に、そこで使われた建築装飾部材を通して、民間の建築に込められた建築家の理念、施主の思いを紹介する。

③特別展「心齋橋 きもの モダン — 煌めきの大大阪時代— 」

〔平成23年10月15日～12月4日〕

本展覧会は、大大阪の時代の心齋橋筋のありかたや心齋橋筋から発信されたファッション、ライフスタイルに注目していく。これまで強く打ち出されてきた、最先端の洋服を身にまとった「モダンガール」や「モダンボーイ」たちが心齋橋筋を闊歩するイメージが本当の心齋橋筋の姿

であったかどうかを含め、現在までの心齋橋筋の賑わいのイメージとはひと味違う、“モダニズム”の心齋橋筋の姿を浮き彫りにする。

④特別展「柳宗悦－暮らしへの眼差し－」

[平成24年1月7日～2月29日]

柳宗悦の独自の審美眼により蒐集された、陶磁器や染織品、木漆工品、絵画など古今東西の逸品や、宗悦自身の筆になる書軸や原稿、美しい装丁の私家本や写真などの関係資料、及び柳宗理のデザイン作品(手)と蒐集品(眼)を交えながら展示する。

3. 調査・研究事業

外部研究者を交えた難波宮や大阪学に関する共同研究、ならびに館蔵資料や博物館学に関する基礎研究を実施し、その成果を共同研究成果報告書・研究紀要・館蔵資料集として刊行するとともに、学会等において研究成果を発表する。

4. 教育・普及事業

学芸員による「なにお歴博講座」や「古文書講座」、外部講師による講演会やシンポジウム、大阪市内の建築や遺跡をまわる見学会、夏休み期間や休日における子ども向け体験教室等を実施し、市民が大阪の歴史と文化を学ぶ機会を提供する。

5. 学校・市民等との連携

難波宮の体験発掘や講師派遣等をとおして学校との連携をはかるとともに、大阪市教育センターとの共催により社会科教員向け研修等を開催する。

また博物館を拠点に活動するボランティアや友の会、地域のNPO法人等との共催事業をとおして市民団体との連携をはかる。

6. 情報発信、広報宣伝

ホームページ・歴博カレンダー(季刊)・ポスター・チラシ、およびマスメディア等をとおして、幅広く効果的な情報発信・広報宣伝を実施する。

7. 来館者サービスの向上

案内サインの改善、スタンプカードの実施、レストランとの提携など、来館者のニーズに応じたサービスの向上をはかり、博物館利用の促進に取り組む。

8. 施設の維持管理

警備・券売・清掃の実施。設備等の保守点検の実施。安全で快適な施設の運営に取り組む。

Ⅲ. 大阪市立自然史博物館管理運営事業

1. 資料の収集、保管事業

動物・植物・化石・岩石・鉱物等に及ぶ自然史資料を、大阪を中心としつつ、それと密接に関連のある資料は、日本全国更には必要に応じて海外にまで対象地域を広げて収集する。特に、大阪との地理的關係から東アジア～東南アジア地域を重視する。

収集した標本は、マイナス45度の低温薫蒸を基本とし、必要に応じて薬品燻蒸処理を行った後、登録して収蔵庫内に最適な環境で保存し、展示や教育活動、外部利用者へのサービス等に積極的に活用する。また、GBIF（地球規模生物多様性情報機構）事業への参画による標本情報のデジタル化や公開を進めるとともに、収蔵資料目録を刊行する。

2. 展示事業

(1) 常設展示

常設展の展示資料の入替えを適宜行うとともに、子ども向け解説の増設やこれまで好評であったジオラボ、子どもワークショップ、探検クイズなど来館者と直接的に対話を行う事業を一層充実させていく。

そして、中長期的な視野に立った系統的な展示更新の検討を進める。

(2) 特別展示

① 特別展「来て！見て！感激！ 大化石展」

「化石とは何か、どんなものか」をわかりやすく展示するとともに、地球の歴史と関連づけながら、生命の歴史について化石標本をもとに展示する。

<期 間> 平成23年7月2日（土）～8月28日（日）

<展示コーナー>

化石とは何か、生命の誕生、古生代の生物、恐竜の時代（近畿地方で産出している恐竜を一堂に展示）、アンモナイトの海、中生代の森、新生代の哺乳類、氷期と間氷期の生き物 など。

② 特別展「OCEAN！ 海はモンスターでいっぱい」

現在地球上で名前がついている生物は、約175万種になる。しかし、実際に生息している生物種は2000万種以上になるとも推定されている。地球上の多様な生物はすべて、今から30数億年前の海中で誕生した生命の子孫であり、長い時間をかけて進化してきた結果なのである。

本企画では、海の生物の多様な姿を、化石と現生標本をつかって紹介する。6億年の昔から現在に至る海の生物の「かたち」を通して、

それぞれの生物の海中における適応の様子を示し、生物多様性の歴史に迫る。

<会 期> 平成23年(2011年)9月10日(土)～11月27日(日)

<主 催> 大阪市立自然史博物館、読売新聞社

③ 特別展 世界最大のティラノサウルス実物頭骨化石

日本初公開！「新説・恐竜の成長」展（仮称）

<会 期> 平成24年(2012年)3月10日(土)～6月3日(日)
(予定)

<主 催> 大阪市立自然史博物館、読売新聞社

(3) 特別陳列

① 特別陳列「お披露目！博物館に届いた新しい標本」

主に最近1年間に、博物館資料に加わった動物・植物・昆虫や、化石・岩石の標本の中から、約2万点を展示する。

<期 間> 平成23年4月29日(金・祝)～5月29日(日)

<標本数> 約2万点

<主な展示標本>

大阪湾に漂着したマッコウクジラの胃内容物と下顎骨（約1100点）

小路嘉明コレクション（日本産蝶類）（15,873点） など

3. 調査・研究事業

学芸課内のプロジェクト調査、学芸員の個別テーマによる研究、館外研究者との共同調査研究を行うほか、市民参加による調査活動として、新しく「大阪を中心とした都市の自然に関する調査」を開始する予定である。調査・研究の成果は、学会や当館主催の学芸ゼミで発表するとともに、当館刊行の研究紀要や学会誌に寄稿する。

4. 普及教育事業

「やさしい自然観察会」・「テーマ別自然観察会」等の野外観察会と、室内実習・植物園案内・ジュニア学芸員になろう！・博物館たんけん隊・ジュニア自然史クラブ・ジオラボなど博物館内で行うイベント、自然史オープンセミナーや講演会、「自由研究相談会」、「標本同定会」など多彩な事業を実施し、自然に親しみ、楽しく学べる機会を提供する。実施に当たっては、NPO法人大阪自然史センターと連携して、事業の充実に努める。

5. 学校・市民等との連携

総合的な学習の時間やキャリア教育など学習活動のサポート、教員向け支援プログラムの実施、教材の貸出し、Teacher&Museum Networkによる情報提供等で学校教育を支援する。

野外観察会補助スタッフ等のボランティアを行事毎に募集するほか、月例ハイク等の自然史博物館友の会事業を支援し、NPO 法人大阪自然史センターの各種事業に協力する。

併設施設との連携についても、積極的に進める。当館のネイチャースクエア「大阪の自然誌」がある「花と緑と自然の情報センター」は、「長居植物園」との複合施設である。そして、両施設は隣接し、互いの相乗的効果を生かしていくことを大切にしている。毎月の相互連絡会を開催し、今後とも「長居植物園」の事業と密接な連携・協力を図っていく。

6. 情報発信、広報宣伝

当館のホームページを充実し、年間を通じた利用促進を図る。また、館内パンフレット、ポスター・チラシを効率的に配布し、マスコミ発信や地域情報誌掲載を含めて、博物館活動全体の広報宣伝を積極的に行う。さらに展示解説書等の出版物を刊行し、成果の公表と市民の学習支援を行う。

7. 来館者サービスの向上

魅力ある展示事業や普及教育事業の展開に努め、来館者との対話を深め、一人一人のニーズに応えられるように取り組む。また、ゴールデンウィークの定例休館日の臨時開館、関西文化の日の実施等により、一層のサービスの向上を図り、利用の促進に取り組む。

8. 施設の維持管理

警備・案内・券売・清掃及び設備等の保守点検を専門の業者に委託して、安全・快適な施設の維持管理に努める。また職員の意識向上に努め、施設のよりよい維持・管理を組織的・継続的に取り組む。

IV. 大阪市立美術館管理運営事業

1. 資料の収集、保管・貸出等事業

日本や中国で制作された絵画・彫刻・工芸などを中心に、寄贈や購入による館蔵品と社寺や個人から預かる寄託品のさらなる収集に努める。そして、それらを適切に保存・管理するため環境を整え、また貸出しによる他館の展覧会への出品や他の研究機関などへの観覧に供する。

2. 展示事業

大阪市立美術館は、国宝、重要文化財の公開展示施設に指定されているように、館蔵品と、寺社・個人からの寄託品を多数保管し、これら作品を広く市民の方々に供している。その目的のために一定のテーマによる常設展示を開催し、また、独自の企画に基づいて、特別に所有者から美術品を借用して、大規模な特別展を開催したり、他の共催者とともに多様な内容の展覧会を誘致する。

(1) 常設展（平常展）

常設展を美術館の特色や収集・展観の方向性を示す美術館活動の根幹と位置づけ、学芸員の日頃の研究の成果を披露するとともに、市民をはじめ来館者の美術に対する関心を高めてその魅力をアピールする。そのため、さまざまな角度から日本や中国の美術を展望できる展示を年間を通じて展開し、最新の学術的知見を反映させた展示活動を精力的に行う。なお、特にテーマ内容や広報上重要なものについては、特集展示と銘うって開催する。

<特集展示>

「中国書画の名品（仮称）」

「仏教美術の至宝（仮称）」

[平成 23 年 9 月 17 日（土）～10 月 16 日（日）、
10 月 20 日（木）～11 月 23 日（水・祝）]

特別展「岸田劉生展」（後述）と併設して開催。

世界的にも著名な阿部コレクションをはじめとした館蔵品や、社寺や個人から寄託を受けている作品の中から名品を選び、展観する「中国書画の名品」展。

および、田万コレクションをはじめとした館蔵品や、近畿一円の社寺から寄託を受けている国宝・重要文化財を含む絵画・彫刻・工芸による「仏教美術の至宝」展とを開催。

(2) 特別展

学芸員の調査研究の蓄積の上に立って利用者のニーズを踏まえながら魅力あるテーマを設定し、大阪市立美術館の館蔵・寄託の作品を用いたり、全国の寺社や国内外の美術館、博物館、個人所蔵の作品を特別に借用する大規模な自主企画の特別展や、全国を巡回する集客性が高く充実した内容の展覧会を誘致して特別展を開催する。これにより、市民文化や情操・教養の

向上に寄与し得る学術的で質の高い内容の展覧会を目指す。

- ①「没後 150 年 歌川国芳展」〔平成 23 年 4 月 12 日（火）～6 月 5 日（日）〕
江戸時代後期の浮世絵師歌川国芳の没後 150 年を記念し、その代表作を集めた回顧展を開催。歌川国芳は、武者絵の国芳として、風景画の広重、役者絵の国貞と並び称されるほどの名声を得た。武者絵・風景画・戯画・美人画などから国芳の多彩な作品を紹介。
- ②「第 57 回全関西美術展」
〔平成 23 年 7 月 5 日（火）～7 月 18 日（月・祝）〕
大阪の芸術振興を図るため、昭和 16 年に大阪芸術展覧会として発足した日本画・洋画・彫刻・工芸・書の 5 部門の公募展で、入選作品と招待作家の作品をあわせて展示。
- ③「生誕 120 周年記念 岸田劉生展」
〔平成 23 年 9 月 17 日（土）～11 月 23 日（水・祝）〕
岸田劉生生誕 120 年を記念して、洋画家岸田劉生の代表作を網羅した展覧会を開催。劉生はセザンヌ、デューラー等の影響を受けながら、写実的な風景画や神秘的な静物画などの多くの秀作を残しており、娘の麗子の肖像画ほか多様な作風の変遷を紹介。
- ④「第 43 回日展」〔平成 24 年 2 月 18 日（土）～3 月 18 日（日）〕
大阪に春を告げる毎年開催の伝統ある現代美術の総合公募展で、日展の大家作家による基本作品と、大阪・奈良・和歌山・兵庫の 4 府県の地元作家入選作品もあわせて展示。

(3) 特別陳列

大阪市立美術館の館蔵・寄託の作品を主体に、学芸員の調査研究の蓄積の上に立って様々なテーマを決め、中規模の特別展を開催する。本年は 3 つの大きなテーマを掲げた館蔵品・寄託品を中心とした企画を同時に開催する。

- ①「受贈記念 田原コレクション 色鍋島・藍鍋島」
「彫刻時光 —Sculpting in time 中国石造彫刻 400 年」
「漆をたのしむ 蒔絵・螺鈿・根来」
〔平成 23 年 8 月 2 日（火）～9 月 4 日（日）〕
故田原一繁氏と元子夫人の収集による鍋島焼 118 件の寄贈を受けたことを記念して展観する、江戸時代の鍋島藩の藩窯で焼造された色絵・染付の名品展。
日本を代表する中国彫刻コレクションとして知られる館蔵の山口コレクションを中心に展観する、北魏～唐時代（5～8 世紀）につくられた仏教・道教による石刻造像の企画展。
カザールコレクションを中心とした館蔵品と社寺や個人から寄託を受けている名品を展示し、中世から近代に至る日本の漆の多彩な表現とその楽しみ方を紹介する企画展。

② 「一館蔵・寄託の名品による— 中国工芸の 5000 年（仮称）」

「中国拓本 師古齋コレクション（仮称）」

「—小西家伝来— 光琳資料」

〔平成 24 年 1 月 7 日（土）～9 月 4 日（日）〕

館蔵・寄託の名品による中国工芸の名品展。

中国書法芸術において重要な碑文などの拓本を多数含んでいる、館蔵の師古齋コレクションの名品展。

江戸時代の画家尾形光琳の息子寿市郎が養家である小西家にもたらした光琳の画稿や粉本、手紙類は小西家伝来光琳関係資料として、一括重要文化財に指定されている。館蔵品と京都国立博物館から寄託を受けている作品群を一挙公開する企画展。

3. 調査研究事業

開館以来の調査研究活動により学術発展に大きく寄与してきた実績をもとに、他の博物館施設や各学会との連携をはじめとして、独自企画の展覧会の実現、講演会・シンポジウムなどの開催、国内外の各種学術雑誌や大阪市立美術館発行の図録・紀要などへの論文発表などを行い、その研究成果を積極的に発表し、今後とも学術発展に寄与する。

4. 教育・普及事業

特別展の開催時に展示内容の理解の深化や充実につながる講演会を開催するほか、最新の調査研究の成果や美術文化全般にわたって、広く市民に普及し理解していただけるようなテーマでのセミナーを開催する。展覧会内容や館蔵品について、図録等やホームページなどで最新情報を提供する。

5. 学校・市民等との連携

学校との連携事業として博物館学の実習生を受け入れ、また、将来学芸員を目指すインターン（研修生）とともに、教職員研修等も実施している。

また、美術研究所が行なう体験学習会「美術館へ行こう」では、これまでは児童・生徒を対象とするだけであったが、新たに成人も参加できる企画を加えて実施するとともに、各種市民団体の見学会の誘致や作品解説等を行ない市民が美術により広く触れる機会を提供している。

さらに、各種団体との協働に努め、幅広い市民ニーズに対応できるよう様々な検討と実践に努める。

6. 情報発信・広報宣伝

リアルタイムに美術館情報を掲載したホームページによる広報や年 2 回（3 月、9 月）の展覧会スケジュールや特別展・常設展の情報を掲載した広報誌「美をつくし」の発行、また、展覧会開催ごとに市内の各種施設をはじめ地下鉄などへのポスター・チラシなどを配布、さらに大阪市の各所属が発行する広報誌やメディア各社にも情報提供して新聞・雑誌などの媒体で広く

広報・宣伝活動を行い、広く市民をはじめとする利用者に対して、美術館概要、利用案内、展覧会の内容、館蔵品の紹介などに努める。

7. 来館者サービスの向上

案内サインの改善、展示品のわかりやすい説明など観覧者にわかりやすい環境作りを行ない、受付窓口に寄せられる利用者の要望やアンケート調査の分析結果などを職員みんなが共有することにより、市民の生の声を的確に美術館運営や展覧会に反映させ、来館者のサービスの向上に努める。

8. 施設と設備の維持管理

施設と設備はともに老朽化が進んでおり、修繕の必要な箇所が多々存在する。限られた予算を有効に活用しながら、効果的な予算執行に努める。また作品の保護と保全に関する空調などの整備と能力の維持・向上についてはもとより、利用者が快適かつ安全に施設を利用できるよう常に施設を衛生的に保持し、館内外の美観保持に努めるとともに、人と機械による24時間警備を行うなど、作品と利用者にとって安全で快適な施設の維持管理に努める。

9. 美術研究所・友の会事業

美術研究所が行っている実技指導・コンクール・体験学習会「美術館へ行こう」などの事業と友の会が実施している毎週日曜日の絵画教室などの事業の双方を財団の事業として位置づけ、美術研究所・友の会運営委員会を開催し、双方の有機的な連携を図りながら、技術の向上と美術の振興に寄与する。

V. 大阪市立東洋陶磁美術館管理運営事業

1. 資料の収集・保管事業

収蔵資料を基に、より特色のある質の高いコレクションの形成のため高い専門性を生かして効果的、効率的な収集計画を作成する。また、芸術的あるいは資料的価値の高い作品の寄贈受入についても推進する。

東洋陶磁その他これに関する研究資料、文献、写真等を収集整理し、東洋陶磁の研究拠点として充実を図る。

また、常駐警備及び厳重な保管設備により作品の安全性を確保する。

2. 展示事業

(1) 常設展(平常展)

安宅コレクションの中国陶磁・韓国陶磁、李秉昌コレクションの韓国陶磁、日本陶磁の中から代表的作品を中心に約 300 点をそれぞれ陶磁史の流れに沿って展示する。あわせて、沖コレクションの鼻煙壺約 100 点を展示し、陶磁器以外にも中国の美術工芸品を紹介する。

また、常設展に変化と多様性を持たせるため寄贈作品を中心に約 20～30 点をテーマ・ジャンルごとに企画構成する特集展示を次のとおり開催する。

① 「李秉昌コレクション韓国陶磁」 [平成 23 年 4 月 9 日～7 月 24 日]

李秉昌コレクションの高麗から朝鮮時代の韓国陶磁約 20 点を紹介する。

② ^{こそめつけ}古染付に遊ぶ一日本人が愛した中国明末の青花磁器

[平成 23 年 8 月 2 日～8 月 28 日]

古染付とは、明時代末期の天啓年間(1621-27)を中心に江西省景德镇の民窯で焼成された青花磁器、いわゆる染付のうち、日本に輸入されたものに対する日本独自の呼称である。本展ではこれまでご寄贈いただいた古染付作品約 20 点により、古染付の魅力を紹介する。

③ ^{しょうちゅう}「掌中^{びえんこ}の美—沖正一郎コレクション鼻煙壺

[平成 23 年 9 月 10 日～12 月 25 日]

鼻煙壺とは、嗅ぎタバコを入れるための小さな容器で、中国の清時代に流行した。陶磁、ガラス、七宝など様々な材料で技術の粋をこらしたものが作られ、実用品であるとともに身近な愛玩品でもあった。沖正一郎コレクションより 150 点を厳選し、多彩に広がる中国工芸の世界を紹介する。

(2) 特別展

「浅川巧生誕 120 年記念 浅川伯教・巧兄弟の心と眼—朝鮮時代の美—」
〔平成 23 年 4 月 9 日～7 月 24 日〕

植民地期（1910-1945）の朝鮮で活動し、朝鮮工芸品の近代的研究において先駆者的な役割を果たした浅川兄弟。それまで見向きもされなかった朝鮮陶磁の価値に光をあてた意味は大きく、それは柳宗悦らの「民藝」誕生へも繋がった。本展では、浅川兄弟と柳が選び抜いた陶磁器や木工品など約 200 点を通して、兄弟の事跡を初めて体系的に紹介する。

(3) 企画展

国際交流企画展「碧緑の華—龍泉大窯楓洞岩窯址発掘成果展」
〔平成 23 年 9 月 10 日～12 月 25 日〕

中国浙江省の龍泉窯は青磁の一大産地である。近年、大窯楓洞岩窯址が発見され、故宮博物院などの伝世品に類する破片が出土し、ここが明時代の洪武（1368-98）・永楽（1403-24）年間に宮廷向けの美しい碧緑色の青磁が焼かれた窯であったことが明らかになった。本展ではこの龍泉大窯楓洞岩窯址の発掘成果を出土品約 80 点により日本で初めて紹介する。

(4) その他

改修工事休館の期間の平成 24 年 1 月から 3 月に、東京・サントリー美術館において、当館館蔵品による特別展を開催する。

3. 調査・研究事業

東洋陶磁その他美術に関する調査研究事業として、中国陶磁、韓国陶磁、日本陶磁に関する研究・窯址調査等を行い、その成果を展示・講演活動等により市民へ還元するとともに、学会での研究発表などにより学術の発展に寄与する。

4. 教育・普及事業

(1) 講演会等の実施

展覧会の内容の理解や、調査研究の成果を還元するため講演会、講座、研究会等を開催する。

- ① 講演会「浅川伯教・巧兄弟の心と眼」展、「碧緑の華—龍泉大窯楓洞岩窯址発掘成果展」などにおける外部講師による講演会の開催

- ② 講座、学芸員アフタヌーンレクチャーなどの開催
- ③ 東洋陶磁学会、民族藝術学会などとの提携による研究会などの開催
- ④ 特別展における学芸員ガイドの実施

(2) ボランティアによるガイド事業

常設展、企画展の展示期間中、土・日・祝日の午前と午後にボランティアによるギャラリーガイドを行う。団体見学者については、平日も予約によるガイドを実施。ボランティアガイド事業の充実を図るため、学芸員が随時研修を行う。

5. 各種団体との連携

各種団体、学校、地域活性化計画、周辺各施設との連携により、効果的な広報活動と入館者へのサービスの充実を図る。

6. 情報発信・広報宣伝

ホームページ、館案内パンフレット、年間展示予定、ポスター・チラシ、マス・メディアなどにより、東洋陶磁美術館の活動を広く周知させる。

入館者に対するアンケート調査を随時実施し、入館者の要望等を事業に反映するとともに、効果的な情報提供、広報活動等に活かす。

7. 他の博物館等との連携

国内外の美術館、博物館、研究機関等との多角的な連携による共同研究、展覧会の共催、シンポジウム・研究会の開催等の事業推進を行う。

- ① 国際交流企画展「碧緑の華—龍泉大窯楓洞岩窯址発掘成果展」における浙江省文物考古研究所等との連携
- ② 「浅川巧生誕 120 年記念 浅川伯教・巧兄弟の心と眼—朝鮮時代の美—」における千葉市美術館、山梨県立美術館、栃木県立美術館との連携

8. 来館者サービスの向上

来館者のニーズに応じた案内サインの改善、解説などの外国語表記の充実、ボランティアによる展示解説など、サービスの向上に努める。

9. 施設の維持管理

利用者が安全かつ快適に施設を利用できるよう全ての施設、設備の適切な維持管理を行う。

10. その他事業

(1) 出版等事業

展覧会図録の製作販売、館蔵品図録の製作販売、ミュージアムグッズの販売。

(2) 友の会事業

友の会は、東洋陶磁美術館の存在意義を評価し、収集・調査・研究・学術交流等の活動を側面的に支援して、美術館の一層の発展と充実を図ることに賛同する会員で組織されている。

講演会などを通して会員へ東洋陶磁に関する情報提供等を行う一方、美術館の利用促進や普及活動などに会員の協力を求めるなど相互連携を図る。

VI. 大阪城天守閣管理運営事業

1. 資料の収集、保管事業

豊臣時代歴史資料や大阪城関連資料、武器武具参考資料、大阪郷土資料について、収集および寄託化に努め、また展示用複製資料を作成する。収蔵庫および展示ケース内の温湿度や空気環境を良好に保ち、収蔵庫内防疫により資料の保全をはかる。損傷のある収蔵品については専門機関に依頼して修復をほどこす。

2. 展示事業

(1) 常設展示

2ヶ月を目途に文化財展示を全面的に更新する。そのつど3階・4階の各フロアごとに、新しいテーマの展示を立案する。

(2) 特別展

①大阪城天守閣復興 80周年記念 特別展「天守閣復興」

[平成23年10月8日～11月23日]

現在の大阪城天守閣は昭和6年(1931)、大阪市民の寄付によって復興され、平成23年(2011)11月7日に80年を迎える。それを記念する本展では、復興に至るまでの経過、さらに復興から現在に至る大阪城の歴史を取り上げ、関連する資料によって、決して平坦ではなかった大阪城の「現代史」を振り返る。また、他の城郭の例などもあわせて紹介し、「天守閣復興」という取り組みの持つ意味を考える機会ともしたい。

(3) テーマ展

①「南木コレクションシリーズ第11回 瓦版にみる大坂の事件史・災害史」

[平成23年3月19日～5月8日]

昔は情報を得たり伝えたりするのに、今とは比べものにならないほどの時間や労力を費やした。江戸時代には木版印刷技術の発達を背景に、人々は「瓦版」と呼ばれる印刷物(摺物)によって最新の情報を共有することができるようになり、現代のマスコミの原型ともいえるべき状況が生み出された。

大阪城天守閣には江戸時代末期から明治時代にかけての瓦版が多数所蔵されており、本展ではそれらを関連資料とともに紹介する。武士の世が終わり近代社会に踏み出す激動の時代、庶民の目から見た社会の動きを瓦版を通じてたどり、当時の世相を浮かび上がらせていきたい。

3. 調査・研究事業

「豊臣時代資料・史跡調査」および「徳川時代大坂城関係史料調査」を実施するほか、収蔵品や関連テーマについて、個別あるいは他の研究機関

と連携して調査・研究をすすめる。それらの成果を『大阪城天守閣紀要』・『徳川時代大坂城関係史料集』等を作成・刊行することにより公表する。

4. 普及事業

(1) 教育普及

講演会・シンポジウム・史跡見学会等において歴史や資料に関する知識の普及をはかる。また市内の小・中学校と連携して「大阪城写生画展」を開催する。館内に兜・陣羽織（レプリカ）の試着体験コーナーを設け、希望者に体験の機会を提供する。

(2) 資料の活用・普及

収蔵品図録や展覧会図録、名品絵はがき、館蔵品目録、大阪城の案内書等を作成し、頒布する。また収蔵品や関連資料の写真を作成管理し、公共機関や研究者、出版・放送関係機関その他からの掲載や複製作成・商品化の要望に応じ積極的に提供することで、資料の普及に努める。

他の博物館施設等からの資料貸出依頼に応じるだけでなく、展覧会の企画や展示指導等についても協力し、天守閣資料の普及をはかる。

5. 史跡の活用・普及事業

(1) 文化集客イベント

重要文化財に指定されている城内古建造物の特別公開を行うほか、訪れた人々が大阪城や大阪の歴史・文化を身近に感じていただけるようなイベントを季節ごとに開催することで大阪城の魅力を高め、集客につなげる。

①大阪城ファミリーフェスティバル（5月）

②夏イベント「七夕まつり」（7月）

③大阪城夢祭 重要文化財「櫓・金蔵」特別公開（秋）

④大阪城夢祭 Oh!城まつりスペシャル

（ステージイベント）（秋）

⑤迎春イベント（1月）

(2) 姉妹城・友好城郭連携事業

大阪城とゆかりの深い姉妹城（長浜城・和歌山城）や友好城郭（上田城・エッゲンベルグ城）と連携しつつ展覧会等の共同事業を展開し、相互に史跡の活用および宣伝普及をはかる。

6. 情報発信・広報宣伝

国際的金融危機に端を発する国際経済の沈滞化や円高の進行などによる国内外の観光行動が減少している厳しい状況の中、大阪を代表する施設にふさわしい特別展、テーマ展及びイベント等を実施するとともに、ホームページ・ポスター・チラシ・マスメディア等をとおして、幅広い効果的な情報発信・広報宣伝を行うことにより、一層の集客力の向上に向け努力する。

7. 来館者サービスの向上

改札・インフォメーションにおける外国語対応及び音声ガイドシステムの拡充並びにリーフレット、館内サイン、文化財展示解説などの外国語表記にとりくみ、館内案内の充実を図る。

8. 施設の維持管理

改札・案内・警備・清掃・昇降機の運転業務を実施するとともに設備等の定期的な保守点検を実施し安全で快適な施設の維持管理に努める。

9. 大阪城天守閣売店の運営

天守閣売店の管理運営形態の検討を行い経費削減に努めるとともに、ホームページを活用し、季節ごとの売れ筋商品を紹介する等広報活動を充実させ収入確保に向け努力する。

10. 大阪城天守閣復興 80 周年記念

昭和 6 年（1931 年）に市民の寄付金によって復興され、本年で 80 周年を迎える。この 80 周年を記念して、特別展「天守閣復興」を開催するとともに年間を通じて様々なイベントを実施する。

大阪市では、平成 22 年 12 月に「大阪城復興 80 周年記念プロジェクト」が発足し、広くプロジェクト参加希望事業者の募集やイベント情報の発信などを行っている。

天守閣では「大阪城復興 80 周年記念プロジェクト」と協働して各種事業を展開する。

<再掲>

(1) 展示

大阪城天守閣復興 80 周年記念 特別展「天守閣復興」

(平成 23 年 10 月 8 日～11 月 23 日)

(2) イベント

① 大阪城ファミリーフェスティバル (5 月)

② イベント「七夕まつり」(7 月)

③ 大阪城夢祭 重要文化財「櫓・金蔵」特別公開 (秋)

④ 大阪城夢祭 Oh!城まつりスペシャル

(ステージイベント) (秋)

Ⅶ. 博物館群の連携事業

大阪市の博物館群のうち、大阪歴史博物館・大阪市立自然史博物館・大阪市立美術館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪城天守閣の5館に大阪文化財研究所を加えた当法人が2年目を迎えることから、一層、連携による個々の館の機能向上と館を超えた総合力の発揮を目指す。

1. 共同広報事業・共同キャンペーン事業

当法人の5館に法人外の大阪市立科学館・大阪市立近代美術館（仮称）・天王寺動物園の3施設を加えた「8 ON（エイトオン：The Osaka 8 Museums' Network）」グループとしてポスター・ニュース・ガイドなどの紙媒体およびWebなどによる共同広報、市民が各施設を回遊しそれぞれの新たな魅力を発見してもらうキャンペーン「ミュージアムウィークス」を実施する。

2. 文化連携事業

5館が他の文化施設や文化・芸能に関する技能の保持者と連携して事業を実施し、単館にとどまらない新たな文化の魅力を創り出し、市民に提示する。

3. 普及啓発事業

8 ON グループの強みを活かしてひとつのテーマを違う専門的立場からアプローチする市民向け連続講座を開催し、博物館群の魅力をアピールするとともに、グループ館を回遊する形での利用向上に努める。

4. 学校連携

大学との連携については、新規事業として4月から大阪市立大学との包括連携およびキャッシュレス入館が可能なキャンパスメンバーズ制度を導入し、学生による博物館施設利用の促進を図る。この包括連携についてはアピールのシンポジウムを5月15日（日）に開催する。また、キャンパスメンバーズ制度については5月より大阪大学も参加予定である。

小・中学校についても校長会や教科担当教員会への積極的な広報の展開と利用条件の整備に取り組み、利用者増大を目指す。

5. 事業評価

各館による自己評価をもとに事業の成果と課題を幅広い見地から確認する外部評価委員会を引き続き開催し、今後の事業展開に活かしていく。

6. 法人の広報事業等

法人本部としてH・Pを運営して各種情報の発信をおこなう。また、事業提案や支援を通じて、民間企業との連携を図り、サービス向上に結び付けたい。

